

2009 年度前期自治委員会総会決議

大阪府立大学中百舌鳥キャンパス学生自治会中央執行委員会

1. はじめに

学生自治会は、「学生と共に、より良い学生生活を実現する」ことを目的に活動しています。つまり、自治会活動とは、学生自治会だけが行うものではなく、学生全員で行うものです。確かに、アンケートの実施や大学との交渉などは学生自治会が学生の代表として行います。しかし、自治会活動はいずれも学生の意見が基となっており、学生抜きでは自治会活動は成り立ちません。皆さんが積極的に参加することで、より充実した自治会活動となり、より良い学生生活を実現することができます。これから共に自治会活動について考え、共に活動していきましょう。

2. 活動報告・活動方針

学生自治会は、2008 年度後期自治委員会総会から現在に至るまで **“これまでの活動”**で示した活動を行ってきました。また、2009 年度後期自治委員会総会に至るまで **“これからの活動”**で示した活動を行っていきます。

【要望書交渉に関する活動】

・これまでの活動

学生自治会は毎年、学生の要望を大学に直接訴え、その実現を目指す要望書交渉を行っています。昨年度は1月16日（金）に大学と交渉を行い、普段の学生生活で抱く要望の他に、学費やりんくうキャンパス移転に関する要望を訴えました。交渉の場には、当時学生センター長であった石井実元副学長をはじめ、多くの学務課の職員の方々に参加してもらいました。

また、要望書に掲載されなかった要望も学生の実情を表しています。これらの要望を大学運営の参考にしてもらうために、要望アンケートや意見箱に寄せられた意見をそのまま掲載した意見集を作成し、交渉の際に要望書と併せて提出しました。

学生が大学の実情を知る機会は少なく、大学に対する要望が一方的になりがちです。学生自治会は、要望書交渉をより充実した活動にするためには、学生と大学が相互理解を深めることが重要であると考え、要望書に対する大学の回答は公開形式にしてきました。公開回答では、大学から回答を聞いた上で直接質問し、疑問を解消したり、意見を発したりすることで相互理解を深めることができます。今年度は公開回答を5月14日（木）に行い、学生センター長である寺迫正廣副学長をはじめ、理事や各課の代表の方々に参加してもらいました。加えて、昨年度の卒業生も回答を知ることができるように、学生自治会のホームページに大学からの書面回答を掲載しました。

この公開回答は2005年度から始めたものですが、年々参加者が減少していました。学生自治会は、より多くの学生が参加し、大学と学生の相互理解を深めることが重要であると考え、昨年よりも昼の情報宣伝の回数を増やし、公開回答開催の周知に努めました。その結果、今回の参加者が前回の41名から81名に増加しました。しかし、まだ参加者が多いとは言えず、感想文用紙には情報宣伝不足を指摘する声が寄せられました。その他にも、気軽に参加しにくいとの意見が寄せられ、今後解決すべき課題が残りました。感想文用紙に寄せられた意見を踏まえて来年度の公開回答やその情報宣伝について検討していきます。また、感想文用紙に寄せられた参加者の意見、質問は大学に伝え、その回答は自治会総合情報誌『NASCA』を通じて学生に発信します。

その他、公開回答に参加できなかった学生にその内容を伝えるために、大学が行った回答を載せた『NASCA vol. 18 ～2009年度前期自治委員会総会&要望書公開回答合併号～』を作成し、全学生に配布しました。

・これからの活動

学生が日頃から抱く要望を大学へと伝えることは、学生生活をより良くするために重要であると考えます。学生が抱く要望は様々で、切実なものも多数あります。しかし、要望の中には学生の身勝手なものが含まれていることも事実です。そこで学生の抱く要望の中から真に実現すべき要望をまとめ、要望書という形で学生の総意として大学に伝えていきます。こうすることで、大学も現在実現させるべき要望が分かり、より良い学生生活の実現に近づくと考えます。また、昨年から現在に至るまでに大阪府は、運営費交付金の削減や、大阪市立大学との統合、私立大学への売却など、大阪府立大学の今後のあり方について議論してきました。大学は大阪府と交渉しており、学生の要望を大学に訴えることは、これまで以上に重要になると考えます。そこで、今年度も要望アンケートを通じて、中百舌鳥、りんくう両キャンパスの学生から要望を集めた上で要望書を作成し、大学と要望書交渉を行っていきます。

また学生自治会は、りんくうキャンパスの実情に沿った要望を多くの学生から集められるように、りんくうキャンパス学生会（仮）と協力して活動を行っていきます。

他にも、授業料や入学金に関する要望は全学的な問題であるため、羽曳野キャンパス学生自治会と協力して、羽曳野キャンパスでも要望アンケートを実施します。さらに、意見箱、ホームページに寄せられた要望も踏まえ、要望書の作成を行います。

また、要望アンケートの回収枚数は年々減少しています。学生の抱く様々な要望を集約し、学生の総意となる要望書の作成において、より多くの学生から要望を集めることは活動の充実に繋がります。そこで、より多くの学生から要望を集められるようにするために、要望アンケートの周知の徹底や、回答しやすいアンケート用紙の作成に努めていきます。

【大阪府の財政再建に関する活動】

・これまでの活動

2月10日（火）、大阪府知事が大阪府立大学への運営費交付金の廃止を検討していると報道されました。また、同月12日（木）の記者会見で大阪府知事は、大阪府立大学への運営費交付金の削減や廃校を含め、大阪府立大学のあり方について4月から戦略本部会議にて議論し、今後の方向性を今年度中に決定すると明言しました。しかし、この記者会見の中で、当事者となる学生についての言及がなかったため、学生の意見が反映されないままに大阪府立大学の今後が決定されることが危惧されました。そこで学生自治会は、一連の流れに対する学生の意見を集めるために、3月3日（火）から同月末までアンケートを実施しました。このアンケート用紙は、授業時間割表の配布時や、人間社会学部オリエンテーションの際に配布しました。アンケート用紙の回収には、成績開示のためにオープンスペースを利用する学生が多いと考え、C5棟3階に回収箱を設置したほか、学生自治会や大学に対する学生の意見を集めるために常設している意見箱も回収箱として活用しました。回収箱や意見箱にはアンケート用紙を備え付け、最終的に78枚のアンケート用紙を回収しました。アンケートには「学生が十分な学習の機会を得るためには、必要な資金だと思う」、「大学は勉強するために必要な場なので、交付金が廃止されるのは困ります」といった、運営費交付金の廃止による悪影響を危惧する声が多く寄せられました。

そこで学生自治会は、大阪府からの大阪府立大学への運営費交付金に関する政策に学生の意見を反映させるためには、迅速な行動が必要であると考え、中央執行委員会の承認に基づいて、羽曳野キャンパス学生自治会との連名で「大阪府立大学への運営費交付金の維持を求める学生署名」を行いました。署名活動は4月13日（月）から6月11日（木）にかけて、大阪府立大学の全学生を対象に行いました。最終的に3781筆（内、学生3774筆、聴講生3筆、公開講座受講生2筆、科目履修生2筆）を集め、集めた署名は6月12日（金）に大阪府府民文化部に提出しました。

【大阪府立大学のあり方に関する活動】

・これからの活動

大阪府知事は、6月10日（水）に大阪府立大学を視察に訪れた際に、複数の私立大学が大阪府立大学の買収に意欲を示していることを明言しました。国公立大学の私立大学への売却は全国的に見ても前例がありませんが、仮に売却された場合には、教育研究費が削減され、学生が悪影響を被ることが考えられます。今後の大阪府立大学のあり方は、7月に予定されている戦略本部会議にて協議されます。

これまで学生自治会は、大阪府大学教職員組合と意見、情報交換を行ってきました。その結果、大阪府立大学の今後について、大学構成員である学生、教職員がともに考えることが必要と考え、8月10日（月）にシンポジウムを大阪府大学教職員組合と共催で行います。このシンポジウムでは、7月に予定されている戦略本部会議の内容に触れ、大学構成員としての学生の意識を高められるものにしていきます。

また、学生の問題意識を高め、意見を発することができるようにするために、大阪府の動向に関する情報収集を行い、冊子やポスターなどを通じて学生に発信していきます。

【りんくうキャンパス移転に関する活動】

・これまでの活動

今年の4月上旬に生命環境科学研究科獣医学専攻のりんくうキャンパスへの移転が完了し、獣医学科2回生以上は現在、りんくうキャンパスで学んでいます。

学生自治会は、昨年実施したアンケートを通じて獣医学科の学生から、大学に学生の意見、要望を伝えることの重要性を訴える意見や、学生自治会の必要性を訴える意見が寄せられたため、りんくうキャンパスで学ぶ学生も対象に活動を行っていくこととしました。しかし、りんくうキャンパスは中百舌鳥キャンパスから遠く離れており、十分に状況把握をすることができないため、中百舌鳥キャンパスと同じ活動を行うことは困難です。そこで学生自治会は、りんくうキャンパスで活動を十分に行うためには、獣医学科の学生と連携をとることが必要と考え、獣医学科の学生との話し合いを行ってきました。

第1回の話し合いは、1月28日（水）に開催された大学主催の移転に関する説明会の後に行い、りんくうキャンパスでのより充実した学生生活の実現を目的としたりんくうキャンパス学生会（仮）の設立を呼びかけました。そして4月からは月に一度、集まった有志の学生からりんくうキャンパスにおける学生生活の現状把握を行い、学生会（仮）の活動内容や方法、学生自治会との協力について話し合ってきました。

また、中百舌鳥キャンパスから遠く離れたりんくうキャンパスの学生が、自治会活動に対して意見を発することができるように、学生会（仮）の協力の下、意見箱をりんくうキャンパスに設置しました。

・これからの活動

学生自治会は今後も、りんくうキャンパスで学ぶ学生も対象とした上で活動をしていきます。また、引き続き意見箱を通じてりんくうキャンパスで学ぶ学生から、自治会活動に対して意見を集めていきます。

“これまでの活動”でも述べたとおり、学生会（仮）への活動支援や、現状把握のために獣医学科の学生との話し合いを行ってきました。今後も月に一度、学生会（仮）との話し合いを行い、学生会（仮）の活動内容やその方法、学生自治会との協力について話し合っていきます。

【情報宣伝・収集活動】

・これまでの活動

自治会活動とは、より良い学生生活を目指して学生全員で行うものです。学生一人一人の意見が自治会活動をより充実したものにし、さらにはより充実した学生生活にします。しかし、要望アンケートの回収枚数や意見箱に寄せられる意見は年々減っています。このことは、学生の学生自治会への関心が低いことが原因と考えられます。この現状を改善するために、自治会活動の情報宣伝を行い、学生の関心を高めるとともに、学生が意見を発することができるよう、意見箱の設置や、各種アンケートの実施などを行ってきました。

情報宣伝活動の具体的な手段として、自治会活動に関する情報を掲載した自治会総合情報誌『NASCA』を作成し、中百舌鳥、りんくう両キャンパスの全学生を対象に配布してきました。また、その月の自治会活動について掲載した活動紹介ポスター『今月の自治会』を作成し、A9 棟横の学生自治会掲示板や、構内各所の学生専用掲示板に掲示しました。その他、立て看板やビラ、ポスター、横断幕、B12 棟 1 階の掲示板装飾、昼の情報宣伝、ホームページ、WEB 学生サービスセンターの電子情報掲示板などの手段を用いて情報宣伝活動を行ってきました。

また学生が日頃抱く学生自治会や大学への意見を集めるために、B12 棟や C5 棟に意見箱を、ホームページに掲示板を設置しています。これらを通じて寄せられた意見は、学生自治会で検討し、自治会活動に反映させる、大学に伝えるなどしてきました。また意見に対する学生自治会や大学からの回答は、意見箱付近に設置している掲示板への掲示や『NASCA』、ホームページへの掲載を通じて発信してきました。

・これからの活動

“これまでの活動”でも述べたとおり、自治会活動とは、より良い学生生活を目指して学生全員で行うものです。学生が意見を発することで、自治会活動はより充実し、より良い学生生活へと繋がります。しかし、要望アンケートの回収枚数や、意見箱への投函数などから、学生の学生自治会に対する関心は高いとは言えず、未だ学生から意見が集まり難い現状があります。そこで今後も、学生の学生自治会に対する関心を高めるために、既存の情報宣伝手段の工夫、改善を検討していきます。また、新たな情報宣伝手段を模索していきます。

また、学生が日頃抱く意見を学生自治会に発することができるように、C5 棟と B12 棟に意見箱を、学生自治会のホームページに掲示板を設置しています。寄せられた意見に対する回答は、意見箱付近に設置している掲示板や、学生自治会のホームページにて掲載するとともに、『NASCA』でも発信していきます。

【学生団体連絡会議】

・これまでの活動

大阪府立大学に存在する 11 の学生団体は、学生団体間での意見、情報の交換や、単独の団体では解決の困難な問題を連携して対処することを目的に、月に一度、学生団体連絡会議を行ってきました。

毎年 3 月から 4 月にかけての新入生歓迎時期には、多くのクラブ、サークルなどの団体が勧誘活動を行います。しかし、中には度の過ぎた勧誘を行う団体も存在するため、大学行事に支障をきたし、大学や新入生の負担となることが考えられました。そこで学生団体連絡会議で話し合い、新入生歓迎時期に関する規定を取り決め、各団体に徹底するように促しました。

昨年 11 月の学生団体連絡会議をもって発足した第 27 回全学新歓実行委員会は、「新たに大阪府立大学に入学してくる学生が抱えている不安や疑問を解消し、新入生がより充実した大学生活を送れるようにサポートする」ことを目的に、講義紹介冊子の作成や、新入生歓迎企画を実施しました。学生自治会は、活動の場として学生自治会室を提供する、実行委員として役員が参加するなどの形で協力しました。

さらに 4 月の学生団体連絡会議にて、「学生と地域の方々が気軽に参加でき、多くの人に楽しんでもらえる地域に根ざした夏祭りとする」ことを目的に、第 36 回七夕祭実行委員会が発足しました。

学生団体は大学と意見や情報の交換を行い、大学との相互理解を深め、より充実した活動を行うために月に一度、学生センターとの話し合いを行ってきました。この話し合いでは、学部長連絡会議、教育研究会議に関する報告を通じて大学の状況を知るとともに、学生の意見を伝えました。特に今回は、大学と大阪府との交渉内容の報告を受け、“大阪府の財政再建に関する活動”の参考にしました。

また学生センターとの話し合いを通じて、4 月 6 日（月）の入学式終了後に、会場である大阪城ホール内にてクラブ紹介の新入生歓迎イベントを学生団体主催で実施することが提案されました。このことについて学生団体連絡会議で話し合い、新入生の大学生活への期待を膨らませることができるこの歓迎イベントは大変有益であると考え、提案を引き受けました。歓迎イベントの実施に向けて、学生自治会、文化部連合、体育会が中心となって参加クラブや大学と調整を行いました。歓迎イベント当日は、18 のクラブと半数近い新入生が参加し、大変にぎわいました。

・これからの活動

今後も月に一度学生団体連絡会議を行い、学生団体間の情報交換を行うとともに、単独の団体では解決の困難な問題に対処していきます。

“これまでの活動”でも述べたとおり、4月の学生団体連絡会議にて、第36回七夕祭実行委員会が発足しました。実行委員会は6月26日（金）の七夕祭に向けて活動しています。学生自治会は、七夕祭が盛り上がるものとなるように、活動場所として学生自治会室を提供する、実行委員会に自治会役員が参加するなどの協力をしていきます。

また、“これまでの活動”で述べたクラブ紹介の新生歓迎イベントが好評だったため、オープンキャンパスにてクラブ紹介を実施することを大学から依頼されました。このことについて学生団体連絡会議で話し合い、学生自治会、文化部連合、体育会が中心となって参加クラブや大学と調整を行い、実施に向けて活動していきます。他にも、この場を借りて学生団体で何か有益なことができないか検討していきます。

また、今後も学生団体連絡会議の構成団体は、月に一度学生センターとの話し合いを行い、大学との意見、情報交換を行っていきます。有益な情報が得られた場合、『NASCA』やポスターなどを通じて学生に発信していきます。

【立て看板管理局】

・これまでの活動

中百舌鳥キャンパスでは、多くの学生団体やクラブ、サークルが立て看板を情報宣伝の手段として利用しています。しかし、その大きさゆえ扱い方を誤ると大変危険であるため、管理、運用は十分に注意して行わなければなりません。そこで学生自治会は、友好祭実行委員会や白鷺祭実行委員会と共に立て看板管理局を設置し、立て看板が安全に利用されるよう、管理、運用を行っています。立て看板管理局では、立て看板の貸し出しや、利用団体に立て看板マニュアルを渡し、立て看板利用の際の注意を促す、強風時に立て看板を倒すなどの立て看板の管理、運用を行ってきました。また立て看板管理局では、大学祭のステージにて使用するステージバックも立て看板と併せて管理、運用を行っています。

また新生歓迎時期には、普段は立て看板を使用しないクラブ、サークルも立て看板を設置するため、多くの立て看板が並び、大変危険な状態となります。そこで立て看板管理局では、利用団体を対象とした場所割り会議を行い、立て看板の場所の割り振りに加え、立て看板利用における注意を促しました。

・これからの活動

今後も立て看板管理局では、立て看板を貸し出す、強風時に立て看板を倒すなどして、立て看板が安全に利用されるよう、管理、運用を行っていきます。また、大学祭のステージにて使用するステージバックも、引き続き管理、運用を行っていきます。

また白鷺祭本祭典には、立て看板やステージバックの危険性を知らない人が多く訪れます。そのため立て看板管理局では、立て看板やステージバックの見回りを行う、周囲をテープで封鎖し、立ち入ることができないようにするなどして、立て看板やステージバックの安全な管理、運用に努めていきます。

【大型PA再購入実行委員会】

・これまでの活動

大型PA再購入実行委員会は、大型音響機器（以下、大型PA）の再購入を通じて、クラブ、サークル活動や大学祭などの学生の課外活動を充実させ、大学内の文化的発展に努めることを目的に活動している団体です。大型PA再購入実行委員会は、学生自治会、友好祭実行委員会、白鷺祭実行委員会、生活協同組合、白鷺音響企画共同体 S. T. A. F. -1、体育会、文化部連合の7団体で構成されており、現在は第3期再購入に向けて積み立てを行っています。また、これまでに再購入した大型PAは、白鷺音響企画共同体 S. T. A. F. -1 が代表して所有し、管理、運用を行っています。

現在は来年度に迫った第3期再購入に向けて月に一度定例会を行い、機器の現状を確認し、また利用団体を対象に行ったアンケートを基に、購入機器を選定してきました。

・これからの活動

今後も大型 PA 再購入実行委員会は月に一度定例会を開き、機器の現状を確認する、再購入する機器を選定するなどして、滞りなく第 3 期再購入が行えるようにしていきます。

なお、第 3 期再購入までに、大型 PA が故障または消耗し、修理や再購入せざるをえない状況に陥ることが考えられます。その場合は、大型 PA 再購入実行委員会の積立金を使用する、もしくは後援会に援助を求めるなど、柔軟かつ迅速に対応していきます。

【ステージ管理委員会】

・これからの活動

中百舌鳥キャンパスでは、昼休憩時や大学祭の際にクラブ、サークルなどのステージを使った学生の課外活動は大変活発であり、ステージは大学内の課外活動の発表の場として非常に有効です。ステージの管理、運用は友好祭実行委員会と白鷺祭実行委員会が行っていますが、ステージの老朽化が進んでいます。現在は傷んだ天板を交換することで対応していますが、今後ステージを新たに購入する必要があると考えられます。

また、無断でステージに上がる学生がおり、日頃から正しい管理を行っていく必要があります。そこで、学生自治会、友好祭実行委員会、白鷺祭実行委員会はステージ管理委員会を設置し、ステージの補修、再購入やクラブ、サークルなどが安全に使用できるようステージの管理、運用を行っていきます。

ステージ管理委員会では、現在最も老朽化が進んでいるステージに合わせ、平成 22 年度にステージの購入が行えるように積み立てを行うと共に、購入するステージの選定を行っていきます。

【工学部教員紹介冊子】

・これまでの活動

平成 17 年度の法人化の際に、工学研究科長選挙における学生投票制度が廃止され、学生の意見が工学部の運営に反映される機会が失われました。そこで、学生自治会は廃止された学生投票制度の代わりに、工学部の運営に学生が関わることができる方法を模索するために、一昨年末まで工学部教授会執行部との話し合いを行っていました。

教授会執行部との話し合いの中で、学生が研究室を訪れ、学業について質問する他にも、学部運営について教員に直接意見を発することで学部の運営に学生の意見を反映できることが分かりました。しかし、学生は研究室への訪問を敬遠しているためか、オフィスアワーもあまり利用されていません。そこで学生自治会は、「冊子を通じて工学部の学生に教員を紹介し、親しみを持ってもらおう。また、研究室に興味を持ってもらうことで、気軽に研究室を訪れ、日頃から抱く意見を教員に直接伝えられるようにする」ことを目的に教員紹介冊子を現在作成しています。

この紹介冊子の作成にあたり、各教員の人柄や研究内容、研究室の行事などを聞く研究生用と教員用のアンケートを作成し、それぞれに配布しました。しかし、アンケート用紙の回収が終わらなかったため、紹介冊子の作成が遅れています。現在はアンケート用紙の回収と紹介冊子の作成を並行して行っています。

・これからの活動

“これまでの活動”でも述べたとおり、現在学生自治会は紹介冊子を作成しています。学生自治会は引き続きアンケート用紙の回収と紹介冊子の作成を行い、研究室配属前の 1 回生から 3 回生を対象に配布していきます。また、学生から紹介冊子に対する意見、感想を集めるために、感想用紙を併せて配布します。集めた意見、感想は今後の自治会活動の参考にしていきます。

【生命環境科学部自主入学式】

・これまでの活動

生命環境科学部では、4月2日（木）に「新入生同士や新入生と上回生との交流の場を設け、友人や上回生の知り合いができることで、大学生活のスタートを円滑に行えるよう、大学生活に対する新入生の不安を軽減する。上回生から学部、学科特有の講義などに関する体験談を聞くことで、これからの大学生活の見通しを立てる参考にしてもらう。また、新入生の意欲向上につなげるため、研究生に学生視点の研究室の紹介をしてもらう」ことを目的に、「生命環境科学部自主入学式」を行いました。

当日は学科ごとに分かれ、上回生や院生から講義や大学生活について話してもらう「体験談紹介」や、研究生から研究内容や研究室の様子について話してもらう「研究室紹介」を行いました。また、その後の「立食パーティー」では、学部全体で新入生同士や上回生との交流を行いました。

今年の自主入学式には新入生138名、上回生63名が参加し、過去最高の参加人数となりました。さらに、感想文用紙には「大学生活がよくわかって良かった」、「縦横の交流が広がったので良かったです」などの感想が寄せられ、新入生にとって大変好評なものになりました。しかし、研究室紹介の内容が難しかったため、「よくわからなかった」との声も寄せられ、問題点も残りました。今後は、寄せられた意見を参考に活動を検討していきます。

【人間社会学部新聞】

・これまでの活動

これまで学生自治会は、「より有意義な学生生活を送ることができるように、人間社会学部の学生に向けて、情報を必要な時期に合わせて提供する」ことを目的に、人間社会学部新聞『^{ジンジャーズ}人社's!』を作成し、人間社会学部の学生を対象に配布してきました。

人間社会学部には昨年度まで卒業生がおらず、就職や大学院への進学など、卒業後の進路についての情報を学生は得にくい状況でした。そこで人間社会学部新聞には、今年卒業した学生の進路を掲載しました。その他、大学からの資格科目履修の資料をより活用しやすくするため、資格科目の前期の時間割を表にまとめたものや、一昨年度に人間社会学部教育運営委員会(FD部会)が行ったアンケートに対するFD部会の回答、人間社会学部図書室の利用方法について掲載しました。

・これからの活動

“これまでの活動”でも述べたとおり、学生自治会は人間社会学部新聞『^{ジンジャーズ}人社's!』を作成し、様々な情報を掲載してきました。今後も就職活動に関する情報や資格科目の時間割表など、人間社会学部の学生にとって有益な情報を掲載していきます。

人間社会学部では、就職活動と並行して教員採用試験や国家試験の勉強を行う学生が多くいます。そのため人間社会学部の学生は、就職活動について不安を抱いていると考えます。しかし、前回掲載した情報は卒業生の就職先のみであり、就職活動の実情を知るには情報が十分ではありませんでした。そこで今後は、就職活動を終えた学生の実体験について詳しい情報を集めるために、人間社会学部の学生にインタビューを実施します。具体的には、就職活動と勉強の両立や就職活動で大変だったこと、後輩へのアドバイスなどのインタビューを行い、人間社会学部新聞に掲載していきます。

3. おわりに

先に述べた通り、7月に予定されている戦略本部会議にて、大阪府立大学の今後のあり方が協議されるなど、これからの大阪府立大学は大きく変わっていくでしょう。その変化の中で、私たち学生が大学構成員としての意識を高め、意見を発することは、今まで以上に重要になっていきます。たとえ一人一人の力は小さくても、学生全員が協力することで大きな力となります。皆さんも学生自治会と共に意見を発していきましょう。